



南小だより

令和7年度6月号 No. 3

あきる野市立南秋留小学校

校長 小原 太一

URL <https://e-minami03.wixsite.com/website> TEL 558-1136 FAX 550-3085



いじめをなくすために

雨が降る日が多くなり、梅雨が間近であることを感じます。雨が降る日は人にとっては、傘を差さなくてはならなかったり、服や靴が濡れてしまったり、外での活動ができなくなってしまったり、あまり喜ばれませんが、校長室から見える深緑の木々にとってはまさに恵みの雨。雨が降る日はさらに緑が濃く見え、木々が喜んでいるように見えます。昨今は毎年、異常気象で自然災害が頻発するようになりましたが、梅雨にしっかりと雨が降ることは、正常な気象であることの現れであるので、この時期に雨が降ることで、私はほっとします。梅雨が明けると、うだるような暑さが待っているのです、しばらくこの涼しさを甘受したいと思います。

5月に実施いたしました学校公開には、平日にもかかわらず多くの保護者の方にご来校いただきましたこと、大変ありがたく思います。全ての日に来ていただいた方もおられ、保護者の皆様の教育に対する関心の高さや、学校へのご理解を感じることができました。本当にありがとうございました。

さて、6月は「ふれあい月間」（いじめ防止強化月間）です。この期間には、いじめの早期発見のために児童にアンケート調査を行ったり、いじめの防止のために道徳の授業などで、児童に思いやりの心を育てる指導を重点的に行ったりします。これは東京都教育委員会の事業で東京都内全ての公立学校で実施しています。令和5年度の東京都の調査ではいじめの認知件数が62755件で過去最多となっています。これは「相手が苦痛を感じていたらいじめと認知する」という国の方針が浸透し、軽微なものもいじめと認知されるようになったことも一つの要因です。とは言え、この件数は小学校1校あたり、およそ48件となり、1割の児童がいじめを受けている、もしくはいじめをしているという結果です。全ての公立学校でいじめに対する取組に力を入れていますが、なかなか減らない実態があります。

「いじめ」を減らしていくためには、「いじめをしない子ども」を育てなければなりません。そのためにもまずは「なぜ子どもはいじめをしてしまうのか」を考える必要があります。人は、人とのつながりの中で生きています。人とつながることで安心感を得ます。逆に、人と上手くつながれない時は大きな不安を感じます。この不安が原因で自己中心的な考えになり、自分と違う存在を否定したり、自分が優位に立とうとして攻撃をしたり、今ある関係性を保持するために他の人を排除したりするのではないのでしょうか。小学生は親から友達へと少しずつ関係性が広がっていく発達段階にあります。子どもたちは、小学校という現場で「人とのつながり方」をさまざまな失敗を通して学んでいるのです。では、どうすれば、上手な「人とのつながり方」を学ぶことができるのでしょうか。「**大人が子どもを一人の大切な個人として尊重する姿勢を見せれば、子どもも周囲の人を大切に扱うようになります**」（「いじめ、みちゃった！」和久田学著：世界文化社）と本に書いてあるのが目にとまりました。我々大人ができることはこのことに尽きるのではないのでしょうか。先日、6年生の体育の授業で、怖くてなかなかハードルが跳べない子が初めて跳べた時、周りの子どもたちはまるで自分のことの様に喜んでいました。きっと、この子たちの周りの大人たちも、同じように周囲の人を大切に扱う人なのでしょう。学校と家庭、子どもたちに関わる全ての大人たちが同じ思いで「人とのつながり方」を伝えることができれば、「いじめ」は必ず減っていくことでしょう。何よりも子どもたちのために、力を合わせていきましょう。

ふれあい月間（いじめ防止強化月間）について

生活指導主任 植木 和樹

東京都では、6月と11月を「ふれあい月間（いじめ防止強化月間）」として、普段以上にいじめの未然防止や早期発見・対応の取り組みをしています。本校でもいじめの実態把握のためのアンケート、いじめ防止に関する授業、教職員の研修などを行っていきます。お子様の様子について気になる様子があれば、遠慮なく学校までお知らせください。